

4. 議事

【千葉総務課長】

それでは、定刻の時間より早いですが、皆様お揃いのようなので、早速始めさせていただきますと思います。

本校運営協議会委員の皆さまには、お忙しい中またお足元の悪い中ご足労いただきまして誠にありがとうございます。委員長選出までの間、暫時進行を務めさせていただきます総務課長の千葉と申します。よろしくお願いいたします。

只今より平成 29 年度鶴岡工業高等専門学校運営協議会を開会いたします。

最初に、高橋校長から挨拶を申し上げます。

【高橋校長】

皆様こんにちは。
本日は足元の悪い中、またお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。



高橋 幸司
校長

今日開催させていただきます運営

協議会は、本校にとりまして、一番大事な外部評価委員会でございます。ぜひ皆様方からこの 1 年間の本校の活動を評価していただき、それに対するご意見をいただくことによって、来年度もまた本校の運営に生かさせていただければと考えております。

僅かな時間ではございますけれども、ぜひ皆様方の忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

【千葉総務課長】

引き続きまして、高橋校長から運営協議会委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

(高橋校長から運営協議会委員の紹介)

【千葉総務課長】

本校出席者の紹介は、吉木地域連携センター長からお一人ずつ自己紹介をお願いします。

(各自自己紹介)

【千葉総務課長】

その他、本校の各コース長、センター長、事務職員が列席しております。よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、本日の日程をご説明申し上げます。議事の裏面をご覧ください。非常にタイトな時間配分となっております。委員の皆様には、大変申し訳ございませんが、この日程で進めさせていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。次に、配付資料の確認をお願いいたします。

不足の資料がございましたら、お申し付け願います。配付資料の「鶴岡工業高等専門学校運営協議会評価シート」につきましては、お手数をおかけしますが、各評価項目に「評点」・「コメント」をご記入いただき、鶴岡工業高等専門学校総務課企画・連携係宛にご返送くださるようお願いいたします。

最後になりますが、本日の会議につきましては、議事録作成のため、テープ録音、写真撮影をご了承くださいますようお願いいたします。また、ご発言の際には、マイクを使ってご発言くださるようお願いいたします。

それでは、委員長の選出に入らせていただきます。

委員長は、運営協議会規程第 4 条第 1 項の規定によりまして、委員の互選となっております。時間の関係上、前田委員にお願いし

たいと存じます。よろしいでしょうか。

(異議なし)

【千葉総務課長】

ありがとうございます。

それでは、前田委員長にご挨拶をお願いしたいと思います。

【前田委員長】

ただいま選出いただきました前田でございます。限られた時間ではございますが、皆さんの忌憚のないご意見を賜りたいと思います。鶴岡高専のこれからに処



前田 直己
前田製管株式会社 相談役

するように、色んな意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【千葉総務課長】

それでは、前田委員長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【前田委員長】

では、暫時の間の議事進行を務めさせていただきます。

まず鶴岡高専の現状と今後の課題についての説明から入りたいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

【佐藤教務主事】

教務に関する事項について、佐藤から説明をさせていただきます。

教務関係から、学生の状況、志願者確保への取り組み、鶴岡高専における特徴的な教育ということで説明をさせていただきます。

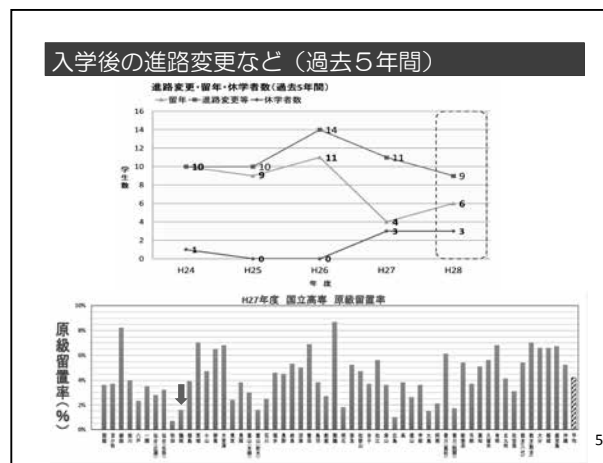
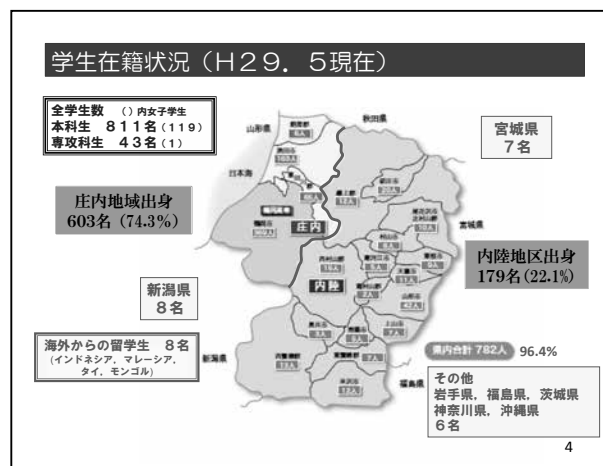
鶴岡高専は、ここにごきますように在校生の96.4%が県内の出身の学生です。

入学後の学生の状況は、平成28年度は全

校の学生811名、その内の9名が進路変更等で学校を辞めております。また、平成28年に6名が原級留置、留年になっております。だいたい1%くらいの学生が卒業しないで、



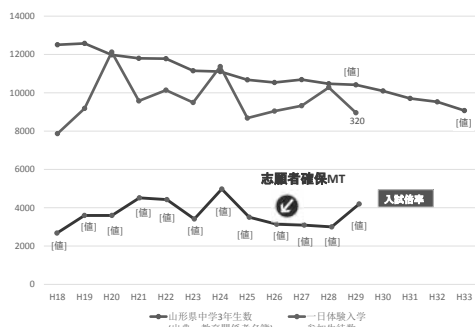
佐藤 貴哉
教務主事



学校を去るということです。全国の高専の平均で見ると、鶴岡高専は非常に少ない人数になっています。

入学志願者の倍率は、平成27年に学科の再編をしまして、4学科を1学科にしました。その後、競争率・志願倍率は減少傾向でした

山形県内の中学3年生の推移と入試倍率など



6

が、今年度 1.43 倍ということで、今までになく高い倍率になってきてまして、再編の結果で鶴岡高専が大きく変わったということが、受験生あるいはその保護者に認知されてきたのではないかと考えております。

入学者の確保活動

- ◆中学校訪問
 - ・県内約90校(山形県中学校訪問)
 - ・県外約33校(仙台市22校、秋田県南部11校)
- ◆広報活動・資料
 - 「College Profile 2017-2018」を発刊
 - 学科改組PRチラシを各中学校・教育機関へ配布
 - 高専専門学習塾(仙台市)を訪問
- ◆中学生一日体験入学の充実
 - 体験学習、施設見学、学校概要説明(中学生、保護者向け)、個別相談、部活紹介 ほか
 - H29・中学生 320名
 - 保護者等168名



7

志願者確保マーケティングチーム(学内公募)

- 29年度 志願者確保マーケティングチームによる達成項目
1. 中学生への鶴岡高専に対する興味喚起→29年度受験者以下にしない
 2. 在学生の充実度、意識の向上→卒業生による宣伝効果で入学者を持続的に確保
 3. 創造工学科のプレゼンス向上

項目	内容・工夫
学校説明会	6~11月に15中学校、2工業高校で学校説明 ・説明者に若手の起用
施設見学受け入れ対応	9月 酒田中の生徒の見学 ・学生を起用した学校説明会
1日体験入学の学校説明会	「鶴岡高専まるごと味わいイベント」 ・在学生による学校生立、特徴の説明 ・保護者向けポスター展示、説明 ・在学生との座談会 ・「記念品」の作成、配布
調査	H29年入試倍率に寄与した取り組みを調査 ・アンケート集計 ・学内情報集約



8

志願者の確保のために、本校としてもかな

り力を入れております。山形県内の中学校を全部訪問しております。また、県外の仙台と秋田県の南部に教員を派遣して、学校説明を行っています。また、仙台には高専専門の塾というのがございまして、そこにも足を運んで鶴岡高専の紹介をしています。志願者確保マーケティングチームを作りまして、若手の教員が中学校の生徒に対して、いろいろお話をしたり、いろいろなセミナーを開催して、志願者の確保を進めています。こういう取り組みをしているのは、全国の高専でも鶴岡高専だけです。

魅力ある学校として鶴岡高専の10年ビジョン

地域から羽ばたくグローバルエンジニアの育成

- ◆研究する高専
 - ・研究と教育は両輪(K-ARC)
 - ・研究成果の教育へのフィードバック
- ◆地域に貢献する高専
 - ・地域を知ること(講義とCO-OP教育)
 - ・卒業生の地元就職
 - ・融合複合技術分野へのアプローチ
- ◆国際通用性を持ったエンジニアを育成する高専
 - ・海外研修、学会発表(国際交流支援室)
 - ・英語力強化



①学科再編、②研究と教育の連携

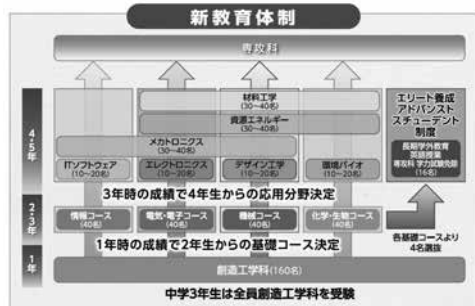
9

創立 50 周年のときに、50 周年から 60 周年にかけての 10 年間の鶴岡高専のビジョンを策定しています。「研究する高専」「地域に貢献する高専」「国際通用性を持ったエンジニアを育成する高専」この三つのビジョンを達成すべく活動を続けています。

研究ということと言いますと、「研究と教育は両輪」というキーワードがございまして。地域に貢献する高専ということでは、教育の面からでは、学生に地域をよく知ってもらう授業等を行っています。国際通用性を持ったエンジニアという面では、学生の海外研修。あるいは、外国の留学生を受け入れる。そして、英語力の強化ということで進めております。

平成27年度学科再編について

4学科(各40名定員)から選択して受験 → 1学科(160名定員)で受験
2年生で4コースへ(1年時に情報収集・進路選択)



10

平成 27 年度からの新学科の構成でございますけれども、今まで 4 学科あったものを 1 学科にし、1 年生は全員が同じ勉強をし、2 年生に上がるときに、四つのコースの中から一つを選択する。そして、また 3 年から 4 年に上がるときには分野というものを選択する形にしています。三つの横に長く書かれている分野は、融合・複合分野になります。例えば、材料工学の分野ですと、電気・電子、機械、化学・生物の三つのコースから選択して勉強することができるというシステムにしています。

コース配属結果(現2年生)

コース選択支援ガイダンスの実施(年4回)

- ・各コースのカリキュラムや卒業生の進路状況等の説明
- ・学生の意識を高め、進路選択に役立てる

昨年度入学者の配属状況

- ・学年末の希望調査(第一希望のコースと人数)
機械:43名 電気・電子:40名
情報:36名 化学・生物:41名
- ・ほとんどの学生が第一希望のコースへ配属(156名)

11

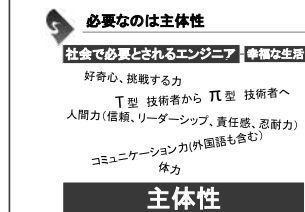
当初心配されていた 2 年に上がるときにコース選択は、学生の希望と、最終的には成績で振り分けるということで進めてきました。今までに 2 回コース配属をやったのですが、

昨年の結果がここにございますように、一つのコースの定員は 40 人ですが、第 1 希望として 43 名、40 名、36 名、41 名とあまりバラツキがなく希望が出てきて、160 名の学生の内 156 名が第 1 希望でコースに入っているという状況が 2 年続いています。これは 1 年間かけてすべてのコースのガイダンスを受けたあと、数回に渡って希望を出してもらい、その希望でシミュレーション配属をしてみて、それで現在の成績と希望を担任教員と話し合いながら、最終的に選択するコースを決めていくということをきめ細かくやっておりますので、バラツキがなく、自分の希望と自分の成績の折り合いをつけて、コースを選んでいくということが上手くできているのではないかと考えています。

鶴岡高専の学科再編 -期待される効果-

- 融合・複合分野で活躍できる人材(地域企業からの要望)
- アドバンスチューデント制度(トップアップの技術者教育)
海外インターンシップによるグローバルエンジニアの素養を育成
技科大アドバンス・コースとの連動
- コース横断的応用分野により連携した研究推進、研究プロジェクトの促進
- 地域ニーズに応えたコース設定 → 起業家精神(アントレプレナーシップ)を育成

■ 主体性を育む



12

研究する高専で主体性を育む

<現在実施中>

- ・CO-OP教育:学校での講義と、企業での就業を繰り返しながら企業の現場で経験を重ねることで、コミュニケーション能力や技術力を高める教育(夏休み、春休みを利用した就業、企業訪問、企業講師による授業)。

- ・連携講座(寄付講座)の活用:スパイバー(株)の寄付講座「アドバンスマテリアル講座」での共同研究に5年生、専攻科生が参加。

- ・プロジェクト研究:教員と学生が数々のプロジェクト研究に参加(K-ARC)。

- ・企業技術者による授業:協立化学産業(株)、ウシオ電機(株)、武蔵エンジニアリング(株)による「接着にまつわる会社の話と接着実験」(2学年全クラス)、「企業技術者が語る会社の仕事」授業(3・4学年全クラス)



13

再編を行ったときの教育の最も根幹になるところですが、これを私たちの学校では「主体性」にしています。技術者になって、社会で必要とされるエンジニアになって生きていくには、主体性が必要だろうということで、自分で問題を見つけて、それを解決していく主体性を身につけてもらいたい。「主体性」というのをキーワードにいろいろな教育のイベントであるとかプログラムを考えております。

その例として幾つかを挙げると、後ほど地域連携センター長から詳しく説明があると思いますが、地域の企業と高専の教員が共同で技術者教育を行う本校独自のCO-OP教育。CO-OPというのはコーオペレイティブエデュケーション（Cooperative education）です。それから、連携講座というのは、地元企業の研究者の人に講座を作っていただいて、授業とか研究と一緒にやる。それに学生が入るというものです。また、プロジェクト研究というのは、教員が主として行っている企業とのプロジェクトに学生が入って一緒に研究をやる。また、企業技術者に学校に来ていただいて授業をするということもやっております。

するようになっていまして、かなり難易度の高い技術士の試験にも毎年 50 名近い学生が挑戦して、たくさん合格者が出ています。

研究する高専で主体性を育む

第2回高専生サミット開催

(2nd KOSEN SUMMIT on KOSEN Science and Technology)

H29年9月13日～15日 於：沖縄工業高等専門学校

第2回高専生サミット

on KOSEN Science and Technology

KOSEN生集合！
～地域の問題をヤングサイエンティストが解決します～

第2回高専生サミットは、沖縄高専が主幹校となり、9月13日（水）～15日（金）に沖縄高専で開催します。高専は、各校の地域ごとに異なる課題解決型の研究から革新的な研究開発まで幅広い研究分野で活動しています。本サミットでは、本科生の1～4年生までの学生が科学と工学分野の研究発表を行い、優秀な発表は表彰されます。学生が日々積み重ねた研究成果を発表し、ディスカッションを行い、サイエンスの楽しさを発見して欲しいと考えています。

日 時 2017年9月13日（水）～15日（金）
会 場 沖縄工業高等専門学校（沖縄県名護市辺野古905）
観 望 者 沖縄工業高等専門学校 学寮

15

低学年からの研究活動

第2回 高専生サミット on KOSEN Science and Technology 開催

KOSEN生集合！～地域の問題をヤングサイエンティストが解決します～

高専低学年からの研究活動を推進する目的
高専1～4年生による研究発表会、優秀な発表には賞を付与

開催日：2017年 9月13日～15日
会場：沖縄工業高等専門学校
参加校：鶴岡高専、沖縄高専、長岡高専、長岡技科大、（一関高専）
参加者：本科生（発表者）—55人
専攻科生・長岡技大生—9人
「発想を科学する」アイデアコンテストプレゼン—4人
男女共同参画 合同イベント—15人
沖縄高専OG、TA—7人

表彰（ポスター発表のみ）：

最優秀賞	北九州高専 2年生
優秀賞	鶴岡高専 4年生 / 新居浜高専 4年生
沖縄高専校長賞	富山高専 2年生
ゲスト審査員賞	鶴岡高専 4年生
沖縄ハム賞	鶴岡高専 3年生
伊藤忠製糖賞	沖縄高専 4年生
トミー沖縄ノボサイエンス賞	沖縄高専 2年生




16

また、これは鶴岡高専が始めた全国高専のイベントなんですけど、高専には低学年から研究をやりたいという学生が少なからず入ってきます。そういう学生に自分で研究テーマを見つけて、教員と一緒に研究をする。その研究成果を1年に1回、どこかで集まって発表するという場を作っています。「高専生サミット」という名前を付けています。昨年の第1回は鶴岡市で開催しました。第2回の今年は、沖縄県で開催しています。鶴岡高専からも二十数名の学生・教員が沖縄県まで行きまして、そこで研究発表をやりました。その結果、優秀賞、ゲスト審査員賞、沖縄ハ

研究する高専で主体性を育む

<現在実施中>
・資格取得をサポート

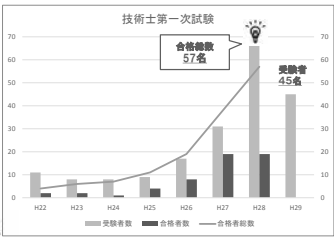
技術士第一次試験（技術士補）

- 理系四年生大学卒業程度の試験レベル（国家資格）
- 到達技術スキルの客観的証明
- 校外学修単位化（H27～）
- 女性最年少（17歳）合格



高専機構理事長賞受賞！

技術士第一次試験



合格者数 57名

受験者数 45名

14

いろいろな資格試験も主体的に学生が受験

鶴岡高専版 英語の到達度目標を設定

卒業時に達成する 「技術者として必要な実践的英語スキル」目標

使える英語を身に着ける！

① 読む

自分の専門分野に関する論文を、辞書を使い理解できる。

② 聞く

自分の専門分野に関する内容について、はっきりとした発音で説明されれば、その概要や実験・作業の手順を理解することができる。

③ 書く

自分の専門分野に関する英文アブストラクトや、プレゼン用の英文資料を基礎的な語彙や表現を用いて書くことができる。

④ 話す

自分の専門分野に関して、平易な英語でプレゼンを行い、内容に関して簡単なやりとりができる。

21

目標到達に向けての経過

平成29年度の実績

* 東北地区高専英語プレゼンテーションコンテストに本校から**2名**参加
うち1名が**三位**に入賞！

* TOEIC実績：

5年生 450点以上14名（昨年度1月受験）

鶴岡高専の
目標達成率
43.7%

* 英検合格者：

1年生 準2級合格者4名、2級合格者なし
2年生 準2級合格者0名、2級合格者なし
3年生 準2級合格者9名、2級合格者2名

鶴岡高専の
目標達成率
約10%

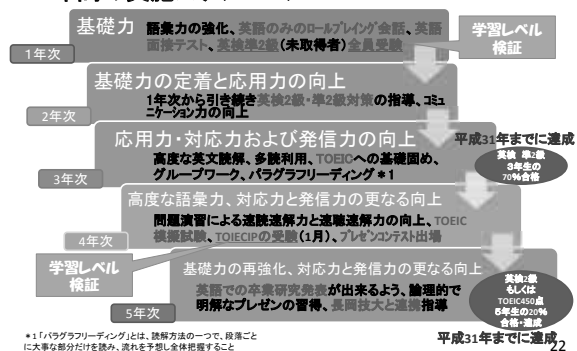
※今年度より1学年の準2級未習得者「全員」に、この級を「義務受験」とし、授業の中で、これに対応した指導を行う。（1月試験実施）

23

ると、目標に対しては、TOEICは43%。英検は10%というまだ低いレベルではあるのですが、こういう形を採っています。

学びの計画

5年間の実施スケジュール



22

にどの程度の英語レベルが望ましいかということで、こういった目標値を立てています。読むについては、論文が読める。聞くについては、はっきりとした発音で説明されれば理解することができる。書くについては、アブストラクト（抄録）やプレゼン用の英文資料を書けるようになる。話すについては、プレゼンができるようになる。こういった目標値を定めて、卒業生がこのレベルに達するような教育をしてもらうということをしています。

具体的には、英検準2級に3年生の70%が合格するぐらいのレベルとか、5年生では、TOEICという英語の試験で450点ぐらいをクリアできる学生が20%ぐらいになるように、英語の教員の方で数値目標を立てているということです。今年の状況を振り返ってみ

「高専キャリアセミナー」の開催

鶴岡高専ならではのユニークな教育



「高専キャリアセミナー」の様子
（本校特設教室にて開催）

28年度は本校卒業生2名と本校在籍生1名を講師とし、在校生及び本校に興味を持つ中学生やその保護者を対象に、高専キャリアセミナーを実施。本校在校生4名もバネウーとして迎え、活発な質疑応答がなされた。

本セミナーは、本校卒業生が卒業後、どのような道があり、どのような仕事をしているのか、また高専時代の学習や生活について語っていただくもの。在校生からは、リアルタイムな高専生活の話を聞くことができる。

楽しく、分かりやすく、様々な体験談を交えて講演いただき、在校生にとっては将来の進路選択の一助となり、また中学生や保護者の皆さんには、本校をより深く知っていただく良い機会となった。



24

トップサイエンティスト&社長講義

鶴岡高専ならではのユニークな教育

趣旨：外部講師（専門家や企業経営者等）を招聘し、通常の授業では学ぶことができない知識を獲得する。

実績：平成27年度・・・17回
平成28年度・・・13回
平成29年度・・・16回（10月まで）

内容（例）①非接触給電技術の最前線（東北大学 松本英敏先生）
②知的財産セミナー（日本弁理士会）
③日本のエネルギー事情と電気事業の方向性（酒田共同火力発電株式会社）
④企業技術者が語る会社の仕事（協立化学産業株式会社）

25

その他、女子学生を増やすためのキャリアセミナーとか、地域の社長に客員教授になっていただいて授業をやっていただく。あと、

保護者授業見学・学校見学会の開催(10月6日)

- ・約150名の保護者が参加
- ・ガイダンス(担当教務主事補)
- ・学校説明(校長)
- ・1学年～4学年の開講授業を公開
- ・5年生の卒業研究公開

保護者との連携

「いきいきとした様子が見受けられてよかった」、「学生から研究内容を説明してもらって感激した」など好評



26

保護者とのコミュニケーションを密にということで、年1回授業参観をしております。1年から4年の授業を公開していきまして、非常に好評なので、今後も続けていきたいと考えています。

以上で教務関係を終わります。

続いて学生関係の説明をお願いします。

【神田学生主事】

続きまして、学生に関する事項として、神田が話をさせていただきます。

まず冒頭に、本年7月本校学生がSNS上のトラブルによって逮捕され、広く報道されました。本校に関係する皆さまに、本当に多大なご迷惑ご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

学生指導につきましては、ここに記載のように、生活指導、学生会指導、交通安全指導、進路指導等を行っております。生活指導・交通安全指導におきましては、鶴岡警察署と一緒に指導をしております。また、メンタルヘルスについても、地元の医療機関また



神田 和也
学生主事

学生指導・支援

No.1/23

- 生活指導
 - 警察署員による「生活指導講演会」(8月9日)
 - 教員による巡回指導(4月～5月、10月～11月)
- 学生会指導
- 交通安全指導
 - 警察署員による「交通講話」(4月19日)
 - 教員、学生会役員による通学指導 ※年6回以上実施
 - 冬期間の自動車通学生に対する「交通指導会」(12月中)
- 進路指導
- 寮生活指導
- メンタルヘルス、いじめ等の防止
 - 「自殺予防アンケート」の実施(4月初旬)
 - 「いじめアンケート」の実施(6月)



生活指導講演会

27

は山形県のカウンセリング協会等と連携しながら指導しております。

学生指導・支援 生活指導

No.2/23

中学、高校との連携

高等学校生徒指導連絡協議会への参加
(年5回、4・7・9・12・2月)

中学・高校生徒指導連絡協議会への参加
(7月6日)

田川地区中学校・高等学校校長会への参加
(年2回、6月6日、11月30日)

学校・警察連絡協議会への参加 (6月22日)

他、交通安全研修会、生徒指導研修会、高校生対話会(鶴岡警察署)、等各種研修会、会議に積極的に参加し情報共有を図る

28

今日中学校の校長先生もおいでいただいておりますが、地元の中学校、高校との生徒指導についても、すべての会議に参加させてもらい、しっかり連携して意志疎通を図りなが

学生指導・支援 生活指導

No.3/23

教員研修

「学生指導研修会」による教員の意識向上(9月28日)
学生指導支援、キャンパスハラスメントの防止に関する事項

学外研修会への教職員の派遣

山形県高等学校生徒指導研究大会(11月8日)

全国国立高専学生支援担当教職員研修(11月10～11日)

山形労働局就職支援セミナー

29

ら指導しております。

こちらはスライド3枚目になりますが、近年メンタルヘルス等、非常に対応が難しくなっておりまして、教員のカウンセリングマインドを涵養すべく、学生指導研修会を開催しております。さらに学外の研修会に教職員を派遣し、マインドの涵養に努めております。

学生指導・支援 学生会指導 No.4/23			
学生会			
区 分	部員数	平成29年度実績	
体 育	陸上競技	29	全国高等学校大会出場
	バスケットボール	31	
	バレーボール	13	
	ソフトテニス	23	全国高等学校大会出場、東北地区高等学校大会男子団体優勝・男女個人戦優勝
	卓球	30	全国高等学校大会出場
	柔道	12	全国高等学校大会女子個人戦3位
	剣道	15	全国高等学校大会女子団体戦準優勝・女子個人戦3位
	野球	59	全国高等学校大会出場、東北地区高等学校大会優勝
	サッカー	53	
	水泳	16	全国高等学校大会女子100m平泳ぎ準優勝
	バドミントン	14	全国高等学校大会出場、東北地区高等学校大会女子団体戦優勝・女子ダブルス優勝
	テニス	31	
	ラグビー	18	
	弓道	30	全国高等学校大会出場
	ハンドボール	40	
	女子バレーボール	9	全国高等学校大会3位
合 計	423		16部
文 化	吹奏楽	16	
	音楽	76	
	天文	6	
	化学	18	
	美術・写真	11	
	E. S. S.	14	
	茶道	6	
	ロボット技術研究	43	アイデア対決全国高等学校ロボコン東北地区大会 審査員特別賞
	ソフトウェア開発	9	
	サービスデザイン	41	
合 計	240		10部
総 計	663		30

こちら話題が変わりまして、本校の学生会の様子です。運動部として16部、文化部として10部、総勢663名の学生がこの学生会に加入し活動しております。

学生指導・支援 学生会・寮生会指導 No.5/23			
学生会・寮生会の意識高揚			
将来構想・戦略会議メンバーと学生会役員の懇談（未定）			
将来構想・戦略会議メンバーと寮生会役員の懇談（未定）			
学生担当副校長と学生会役員との定例ミーティング実施（月1回）			
交流会等への学生派遣			
全国高専学生交流会（8月22～24日）			
東北地区高専学生会交流会（8月19日）			
田川地区生徒会リーダー研修会（未定）			
31			

常に、学生会と意識疎通を図りながら、学校運営をしておりまして、学生担当副校長と学生会役員と月1回の定例ミーティングを行いながら、学生の要望を叶えるべく、ディスカッションしております。本年におきまし

ては、ほぼ各会に校長も出席して、学生の要望を聞きながら、学生のための学校運営をしております。さらに、他高専との交流会等へ学生を派遣しております。

学生指導・支援 進路指導 No.6/23	
就職情報の提供	
➢ 就職支援の充実	
進路支援システムの導入	
会社説明会の参加自由化	
➢ 企業説明会の開催、参加援助	
・ 鶴岡高専合同企業説明会 【山形県との共催】	
花王（株） 他50社が参加（3月1日）	
・ 東北地区高専生のための合同会社説明会	
【メディア総研（株）】（64名参加）	
・ 高専生のための業界研究セミナー	
【（株）学研アソシエ】（2回開催・計56名参加）	
・ 高専生のためのマイナビ就職セミナー	
【（株）マイナビ】（41名参加）	
32	

次に、本校の進路指導の就職情報の提供についてです。web上で求人情報等が閲覧できるように、進路支援システムの導入をしております。さらに、学生にとって不利益にならないよう会社説明会の自由参加を認めております。さらに、各種企業説明会にも参加させておりまして、本校独自の合同企業説明会においても、県内から50社以上の方に参加いただいて、このように体育館で開催をしております。

学生指導・支援 進路指導 No.7/23	
具体的な就職指導・支援	
➢ 進路ガイダンス（12月14日）	
➢ 山形県若者支援センターから派遣	
➢ 履歴書・エントリーシート作成講習会×2回	
➢ 面接・グループディスカッション講習会×2回	
➢ ビジネス・マナー講座	
➢ 研究室指導教員、基盤教育グループ教員による面接練習、履歴書等のチェック	
➢ キャリアコーディネーターによる面接指導（延べ183名）、履歴書等のチェック	
33	

具体的に学生への進路指導につきましては、山形県若者支援センターからの派遣だったり、

本校のキャリアコーディネーターによる面接指導等で手厚く、学生の進路指導・就職指導を行っております。

学生指導・支援 進路指導

No.8/23

自治体との連携

▶ 鶴岡市との連携

- ▶ 10月13日(土) 4年生保護者懇談にて地元企業説明会14社参加
 - ▶ 主催：鶴岡商工会議所、鶴岡地区雇用対策協議会
 - ▶ 保護者65名参加
- ▶ 地元企業見学バスツアー（本校主催「企業訪問研修」と併催）
 - ▶ 主催：鶴岡市商工課
 - ▶ 12月1日(金) 水澤化学工業株式会社 水沢工場（学生7名、保護者4名）
 - ▶ 12月8日(金) 株式会社高砂製作所（学生3名、保護者3名）
 - ▶ 12月15日(金) 株式会社シンクロン（学生9名、保護者8名）
 - ▶ 1月24日(水) Spiber株式会社（参加者申込受付中）
- ▶ Uターン支援事業開始
 - ▶ HP上で希望者が必要事項を入力し、雇用対策協議会へ直結するシステムを構築
 - ▶ 酒田市、新庄市は拡張していく予定である。

▶ 最上総合支庁との連携

- ▶ 教職員による新庄中核工業団地見学と情報交換会
- ▶ 新庄中核工業団地経営者と本校教員情報交換会
- ▶ 教員・学生と企業による新庄市内での交流会

34

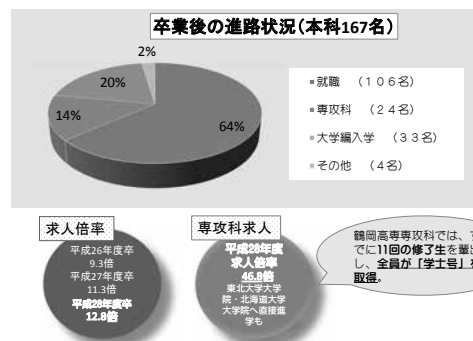
こちら字が小さくて恐縮ですが、本年から始まった新しい試みとなります。自治体との連携ということで、先ほど教務主事から4年生の保護者懇談会の話がありましたけれども、その際に初めて鶴岡市の商工会議所様、雇用対策協議会様から地元企業のプレゼンをしてもらいました。多くの保護者から参加いただいております。今まさに開催中ではあるのですが、CO-OP教育の一環として企業訪問研修というものを開催しております。その中で、鶴岡市の商工課様に保護者によるバスツアーを併催しております。これが実績になります。保護者の方も各事業所訪問に参加いただいております。来年年明けてからはSpiber社にも訪問を予定しております。さらに、ホームページでUターン就職支援事業を開始しております。ホームページの一番見えやすいところにUターン就職支援事業を開始しました。その話を聞かれたかどうか、最上総合支庁からも、ぜひ高専の地元定着を一緒にしたいということで、様々な交流が始まっております。

次に、これが本校の卒業生の進路状況にな

学生指導・支援 進路指導

No.9/23

平成29年3月 卒業生進路状況

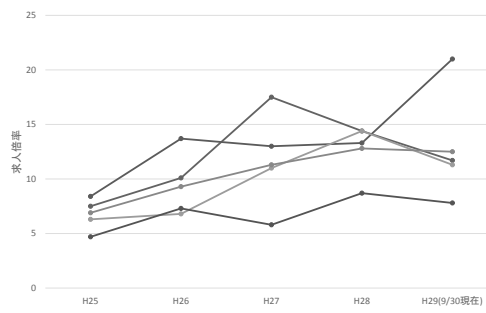


35

学生指導・支援 進路指導

No.10/23

求人倍率の変遷



36

ります。本当に大雑把に言うと、160名卒業のうち、100名が就職で60名が進学となります。おかげさまで求人倍率も右肩上がりが増えております。後程、専攻科長からも説明があらうかと思いますが、専攻科に至っては、求人倍率が50倍弱と非常に高い求人倍率を維持しております。これが求人倍率の変遷で、ほぼ右肩上がり、おかげさまで推移しております。

こちらが具体的な過去5年間の就職先になります。県内・県外と分けて記載されておりますが、ここで特筆すべきは、県内において、今まで安定して採用いただいた企業様はいっぱいあるのですが、さらに近年では、CO-OP教育、地元の企業訪問研修等々をして、中小企業、いわゆる地元で力はあるけれ

学生指導・支援 進路指導 No.11/23

就職先

◆就職について
・企業と学校との密接関係に基づく学校推薦制度が主です。
・専門科の卒業研究指導教員（学生2～6名/教員1名）が、
綿密に面接や専門試験対策をします。

過去5か年（平成25年卒～平成29年卒）の主な就職先

県内 ウエノ、OKIサーキットテクノロジー、オリエンタルモーター鶴岡事業所、
帯谷食品、高研、高島産業庄内工場、シンクロン、スタンレー鶴岡事業所、Spiber、
鶴岡市農業協同組合、TDK庄内、ティービーアル、トガシ技研、
三和メイトック、アライドテック、酒田共同火力発電、東北エフソン、
水澤化学工業、大阪有機化学工業、東和薬品、佐藤鉄工所、東北東ソー化学、
山陽精機、YCC情報システム、本間ゴルフ、ペーリンガーインゲルハイム製薬、
マーレエンジンコンポーネンツジャパン、鶴岡ガス、前田製管、
ヨロズエンジニアリング 他

県外 資生堂、旭化成、DIC、花王、大正製薬、ライオン、ダイキン工業、東芝、
富士通、曙ブレーキ工業、キヤノン、シャパンマリノユニテッド、中部電力、
東京ガス、東北電力、森永乳業、ヤクルト、クラレ、東シ、NOK、テバ製薬、
トアエィヨー、三菱重工環境・化学エンジニアリング、大正製薬、
和光純薬工業、出光興産、JFEスチール、KTX、IHL、シャープ、
JALエンジニアリング、富士重工、大阪ガス、シマノ、
パイオニアシステムテクノロジー、日立ビルシステム、東日本旅客鉄道 他

37

ども、あまり有名ではない地元企業にも1名、2名と毎年のように事業開拓ができておりまして、これから先も継続してまいりたいと思っています。

学生指導・支援 進路指導 No.12/23

高専からの進学と編入学

【専攻科】か【大学】かの選択

進学後に何をしたいか → そのためには大学でどんな勉強をすればよいか → 大学に進むかどうか → 専攻科から大学院に進む選択も

専攻科へ進学か大学へ編入か【決定】

38

こちらは、高専からのキャリアパスになります。これは専攻科の資料と重複いたします

学生指導・支援 進路指導 No.13/23

卒業生の進学先

平成29年3月卒業者 進路状況

◆進路希望の割合
・編入学試験や大学院入試では数学、英語、TOEIC、専門科目、
口試試験等が課されます。
・各教員が専門分野に応じて、個別に綿密に指導します。

学 科	卒業人数	進学人数	就職人数	県内就職	県外就職	その他割合	求人数	求人倍率
機械工学科	42	13	28	6	22	1	402	14.4
電気電子工学科	42	8	34	7	27	0	452	13.3
制御情報工学科	41	18	21	3	18	0	303	14.4
物質工学科	42	18	23	8	15	0	201	8.7

最近3か年（平成27年卒～29年卒）の進学先

国公立大学 長岡技術科学大学、皇徳技術科学大学、室蘭工業大学、岩手大学、東北大学、秋田大学、筑波大学、
千葉大学、埼玉大学、宇都宮大学、東京理科大学、電気通信大学、新潟大学、群馬大学、茨城大学、
信州大学、山梨大学、奈良女子大学、愛媛大学、琉球大学

私立大学 東北公益文科大学、東北芸術工科大学、東京農業大学、東京電機大学、東京情報大学、新潟医療福祉大学、
金沢工業大学、京都工芸繊維大学

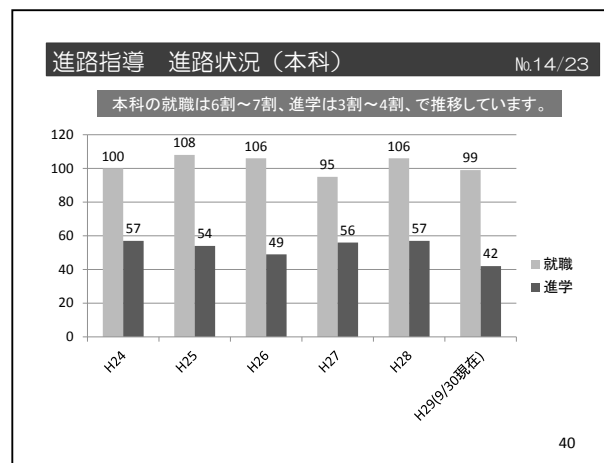
高専専攻科 鶴岡工業高等専門学校専攻科、部立産業技術高等専門学校専攻科、岐阜工業高等専門学校専攻科

大学院 長岡技術科学大学大学院、北海道大学大学院、山形大学大学院、東北大学大学院、東京工業大学大学院、
宇都宮大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、室蘭工業大学大学院、
倉津大学大学院、首都大学東京大学院

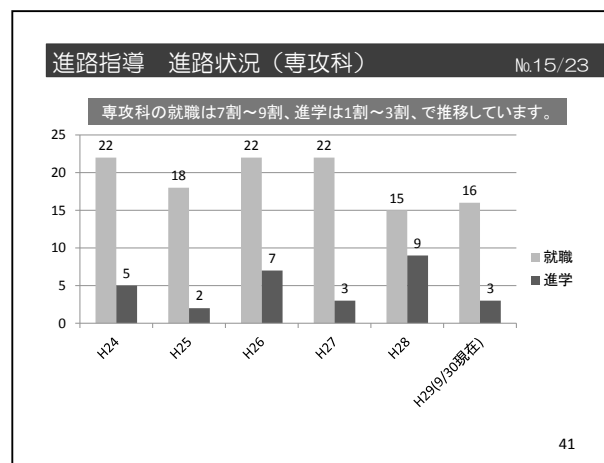
39

ので割愛いたします。

こちらが本校の進学先となります。編入学と専攻科からの大学院に分けてございますが、国公立大学、また大学院にも、北海道大学、東北大学等、推薦で進学できるパスができておりまして、隠れた進学校と言っても差し支えないと思っております。



こちらが本科からの進路状況になります。ここに記載のように大雑把な表現ですが、就職は6割から7割。進学は3割、4割で推移しております。



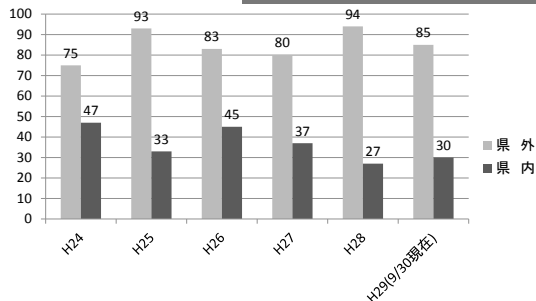
こちらは専攻科の就職と進学の推移となっております。

こちらが就職状況で県内・県外と分けたものです。ここの数字でございますが、こちらは専攻科の就職希望者と本科の就職希望者の

進路指導 就職状況（県内外の割合） №16/23

本科+専攻科 の数字です。

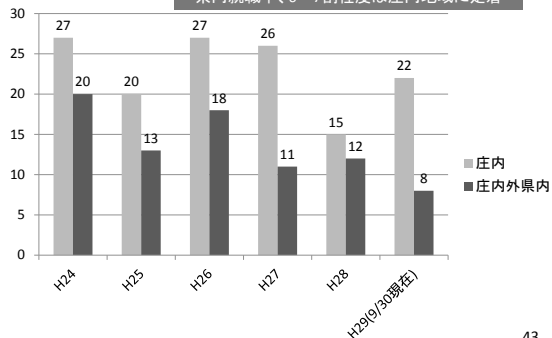
卒業生の1割～3割が地元定着
就職希望者の2割～4割は地元企業へ



42

進路指導 就職状況（県内での庄内の割合） №17/23

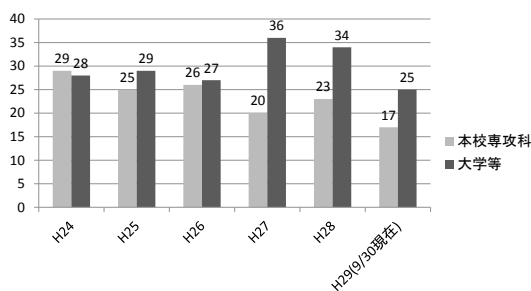
県内就職中、6～7割程度は庄内地域に定着



43

数が合算されておりますので、それぞれ前のところに戻ると、数字が合わないように一見見えるのですが、本科と専攻科が合算されたものがこちらに記載されています。ここに記載のように、本当は年によってバラツキがあるのですが、だいたい就職希望者の4割前

進路指導 本校専攻科への進学状況（本科） №18/23



44

後が地元企業へ就職をしております。その中で、6割から7割は庄内地域に定着をしております。これが本校専攻科への進学状況で、詳しくは後程専攻科長がご説明いたします。

学生の活躍 ボランティア活動 №19/23

№19/23

学生のボランティア

- ▶ クリーン作戦（4月16日）
- ▶ 飛島での家電修理（夏休み中）



- ▶ 鶴岡市スポーツフェスティバルボランティアスタッフ
- ▶ 地域ボランティアセンター開催のイベントへ参加
- ▶ 学内ペットボトルキャップの回収
- ▶ 国際ソロボチミスト鶴岡からボランティア団体として認定され補助金を受けている。

45

そのほかにも、学生の活躍として飛島での家電修理や、地元でのクリーン作戦等、また地元開催の様々なイベントに協力をさせていただいております。

こちらが本校の寮の状況になります。先ほど教務主事から申し上げた人数の中で、409名の学生が今寮に寄宿しております。

学生寮

№20/23

入寮状況（平成29年10月現在）

学 年	男子入寮者数	女子入寮者数	合 計
1 年	8 0	1 6	9 6
2 年	7 2	1 4	8 6
3 年	6 9 (1)	1 2 (2)	8 1 (3)
4 年	7 0 (2)	5 (1)	7 5 (3)
5 年	7 1 (2)	0	7 1 (2)
計	3 6 2 (5)	4 7 (3)	4 0 9 (8)

()内は含まれる留学生数

46

学生寮における課題ということで、今、改修費を予算要求しながら、寮の増設等をお願いしているところです。ここでも特筆すべきは、シェアハウスについてNPO 法人つるおかランド・バンク様を通して、今年度初めて

学生寮

No.22/23

学生寮における課題 ⇒ 改修費予算要求

- ・寮の増設（居室不足）
特に女子学生は5年間入寮することが困難
入学志願者にも影響
シェアハウスについては「NPO法人つるか
ランド・バンク」を通して具体化に向けて調整
➡ 今年度1軒入居
- ・施設の老朽化
- ・夏場の熱中症対策→エアコン設置

47

1軒入居しております。さらに嬉しいことに、1軒入居のところに来年度以降も入居が決定いたしまして、担当者の方とともに喜んでいところす。さらに、学校前にもう1軒空き家があり、国際交流の海外留学生受け入れ先ということで、今調整中としてあります。

また、寮においては夏場の熱中症対策として、エアコンの設置について今工事を進めております。

保護者との連携

No.22/23

後援会

学生の活動、学生指導、学校運営等への援助、役員と懇談

地区保護者懇談会

鶴岡・田川地区：	6月17日(土)	56名	参加教員12名
酒田・飽海地区：	10月 7日(土)	47名	参加教員10名
山形・村山地区：	7月15日(土)	74名	参加教員 8名
新庄・最上地区：	6月24日(土)	23名	参加教員 6名
米沢・置賜地区：	10月14日(土)	22名	参加教員 6名

内容：本校の現状の説明

質疑応答

懇親会

48

こちらは、地区保護者懇談会について、山形県で五つの地区がございますけれども、このように保護者と教員が懇談する場を設けておりまして、すべてのところに学校長、事務部長も参加して、一番大事な保護者の方と連携をしながら学校運営をしているところす。

学生指導・支援

No.23/23

奨学金制度の活用

校内掲示板・HPや担任を通して学生・保護者に周知

日本学生支援機構奨学金	(100名)	
オリエンタルモーター奨学財団奨学金	(10名)	
真知社育英会奨学金	(1名)	
東ソー奨学会奨学金	(1名)	
ウシオ財団奨学金	(1名)	
天野工業技術研究所奨学金	(1名)	等

49

こちらは、奨学金制度の活用ということで、このようになかなか経済的に大変な学生に対しても学生支援をしております。

以上です。

【飯島専攻科長】

専攻科担当の飯島です。それでは、専攻科について、概要と入試・修了生の状況、教育内容について説明させていただきます。



まず専攻科についてですが、改め

飯島 政雄
専攻科長

てどんな教育法、使命を持っているかということ。本科、いわゆる5年間の高専の教育の上に、さらに2年間専攻科というのが設置されております。専攻科は本科での、いわゆる技術教育、工学教育の上に、さらに研究・開発的な能力も備えるようにということを使命としております。さらに、大学と同じように学士の学位を専攻科でも取れるというのが大きな特徴です。

養成する人材、本校の専攻科では幅広い知識を統合して、国際的にも活躍できて、地域の中核にもなるような人材を育てたいという

1. 専攻科とは

専攻科 #1/11

【学校教育法】

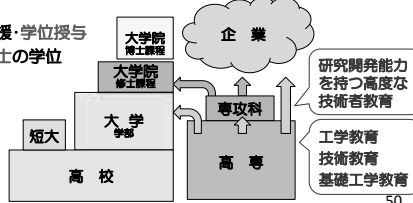
「専攻科は、高専卒業者等に対して、精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。（第119条）」

【その使命】

工業に関する高度な専門的知識および技術を教授研究し、産業界の発展に寄与できる実践的開発的技術者を養成すること

【学士の学位】

大学改革支援・学位授与機構による学士の学位



50

2. 養成する人材と経緯

専攻科 #2/11

【養成する人材】

・広範な融合複合技術と高度な専門知識をもとに、社会情勢に対応して 継続的に成長できる技術者や研究者

幅広い知識を統合した構想力や対応力
国際的に活躍できるコミュニケーション力
地域企業の中核となるリーダーシップ

【経緯】

・平成15年4月設置

2専攻：機械電気システム工学専攻、物質工学専攻

・平成27年4月に改組

生産システム工学専攻：1専攻3コース、定員16名

機械・制御コース（機械系、制御情報系の出身学生）

電気電子・情報コース（電気電子系、制御情報系の出身学生）

応用化学コース（物質系、材料系の出身学生）

51

ことです。13年前にできまして、300名弱の修了生がおります。27年度に再編をしまして、これまでの2専攻だったものを、生産システム工学という1専攻にしまして、その中で、機械・制御、電気電子・情報、応用化学の三つのコースに分けて教育をしています。

入試の状況ですが、資料にもありますとおり、だいたい2倍以上の倍率で、定員16名ですが、毎年20名と、優秀な学生であれば、定員を超えても入学させております。特に今年は、来年度入学になりますけれども社会人も入学が決まっております。

修了生については、就職状況が今とてもよろしくて、このとおりです。県内にもかなり残っているということを注目していただきました

3. 入試状況

専攻科 #3/11

【受入方針：アドミッションポリシー】

- ・科学技術への関心、研究意欲
- ・発想の独自性、チャレンジ精神
- ・専門基礎力

【入学定員】

- ・生産システム工学専攻 定員16名

入学年度	志願倍率（受験者）	入学者
H30	2.56倍（41名）	20名予定*
H29	1.69倍（27名）	23名
H28	2.56倍（32名）	20名

コース毎の定員は設定せず

優秀な学生であれば定員を超えて入学許可

*社会人1名含む

【入学試験】

- ・推薦入試：5月下旬

4年次成績、TOEICスコア
推薦入学志望書、面接

- ・学力入試、社会人入試：7月上旬

専門科目および数学の筆記試験、面接
英語成績（TOEICスコアで換算）

52

4. 修了生の進路

専攻科 #4/11

【就職】

- ・学校推薦と自由応募（大学に準ずる）
- ・本科と同じ就職支援体制

進路の内訳：
就職 7～9割、進学 3～1割

修了年度	求人倍率（求人数）	就職者（県内率）
H29*	45倍～（680社～）	16名（25%）
H28	47倍（694社～）	13名（23%）
H27	30倍（623社）	22名（32%）

内定率 100%
県内就職率 20～50%

*H29年11月

【大学院への進学】

- ・一般入試の他に推薦制度や専攻科特別推薦枠あり

東北エフソン、チノー、鶴岡光学、OKIサーキットテクノロジー、

修了年度	進学者
H29	4名予定*
H28	8名
H27	3名

北大院、奈良先端大院、山形大院、
東北大院、長岡技科大院、豊橋技科大院、
北陸先端大院、宇都宮大院など

*H29年11月

53

と思います。

あと、大学院への進学については、数名程度にはなりますが、全体修了生が20から30の中で、2割程度というのがだいたいの割合です。ここが実績で、下線の部分は、今年の今の状況です。特に最近では、専攻科のいろいろな研究能力、研究室に入ってからすぐに大学院生と一緒にやれるということで評価をいただきまして、専攻科の特別推薦枠というのを東北大学あるいは、技科大にも用意してもらっております。

こちらが課題と対応状況というもので、専攻科というのは本科と違って2年間ですし、大学とではどこが違うのということがいつでも話題になります。この辺を我々は特徴付けていかないと、専攻科の役割を果たせないとい

5. 課題と対応状況

専攻科 #5/11

少子高齢化、人口減少、1億総活躍
多様化、グローバル社会、男女共同参画
ICT社会、IoT社会、地方再生、地方創生

- | | | |
|-----------------|---|---|
| (1) 使命と存在意義の変化 | ➡ | 大学との違い
特徴的教育プログラム |
| (2) 社会からの認知度の向上 | ➡ | 研究力、英語力の強化
地域との連携研究・教育
地域や中学校へのアピール |
| (3) 質保証と外部評価 | ➡ | 学位授与の「特例適用」
自己点検・評価システム |

54

考えております。

5-1. 大学との違い／特徴的な教育

専攻科 #6/11

- | | | |
|------------------------|---|--------------------------------------|
| (1) 融合複合教育 | ・自身の専門分野以外の知識や技術も修得 | 融合複合科目や他分野の実験を設定 |
| (2) 実践的教育 | ・モノづくりとエンジニアリングデザイン
・インターンシップによる就業経験 | |
| (3) 7年一貫教育 | ・本科からの発展・連続した授業
・3年間の継続した研究、教育指導 | “必修” 2週間以上 |
| (4) 少人数教育（数人～20数人／クラス） | ・社会人力の育成
・経済的支援 | 本科5年の卒業研究と
専攻科1, 2年の専攻科研究 |
| | | 本科の授業や国際交流活動でのチューター |
| | | スチューデント アシスタント(SA)
として授業や実験を有給で補助 |

55

一つは存在意義ということで、今申し上げたように、大学と専攻科はどこが違うのかということを、教育の内容で区別していきたいと思っています。それから、認知度ということで、高専は知っているけれども、専攻科は分からないという方がまだ多いので、その辺のアピールを強くしていこうと思います。あとは、対外的に大学の学士と同じということですが、その辺の出口の点検評価。これをきちんとやる必要があると考えております。

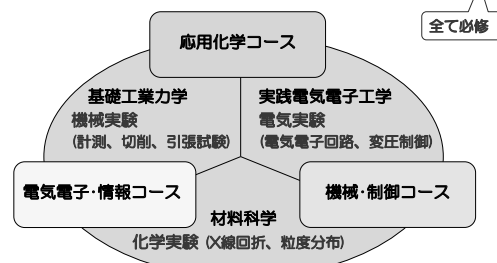
幾つかの教育について紹介したいと思います。

本校で特に力を入れているのが、融合・複合教育ということで、自分の専門があるわけ

5-1-1. 融合複合教育

専攻科 #7/11

- ・工学基礎科目の必修（技術者倫理、データ解析、経営工学、総合技術論）
- ・他分野の専門基礎や実験技術の修得（融合複合科目、専攻科実験）



56

ですけれども、その周辺。例えば、機械のコースでしたら、電気とか化学系のことも知らないといけないということです。それから、エンジニアリングデザインと言っておりますけれども、課題を見つけて解決する能力。あと、専攻科は結局本科からですと、7年の教育になりますので、そういったことを生かして、特に教育は3年間やることになるので、ここを注力しようというふうに思っています。

最初の融合・複合教育についてですが、先ほど言ったことの例です。実際として、化学コースですと、科目としては力学と実践電気電子というような科目を必修で取ります。実験についても機械系の実験とか電気系の実験も合わせてやるということです。他のコースについても同様です。

エンジニアリングデザインというものについては、グループワークでやっておりまして、この例では、飛島で合宿をしまして、飛島での課題。例えば、観光についての課題とか、環境保全についての課題。こういったものを自分たちで見つけて何かそれについてのアイディアを出して物にしようというものです。この写真では、海岸の漂着ごみを自動で集めるような機械装置を作ったというような例です。実際には、あまり上手く集まらなかった

5-1-2. 実践的教育

専攻科 #8/11

「幅広い知識を統合した構想力や対応力」

- ・グループワークによる課題発見と解決（実践的デザイン工学実習）
- ・コース毎の専門課題解決（創造工学実験）



「実践的デザイン工学実習」
飛鳥でのフィールドワーク
（漂着ゴミ収集装置）

地域を知って
地域に貢献



企業技術者による連携授業
（UV硬化接着剤の選定）

チーム力と創造
力の育成

57

という話は聞いております。

5-2. 研究力強化／地域との連携

専攻科 #9/11

「地域企業の中核となるリーダーシップ」

(1) 研究拠点 K-ARCでの活動

- ・共同研究や専攻科研究
- ・慶応大との単位互換授業
- ・地域企業への研究紹介



K-ARCでの授業
「技術者倫理」

(2) 専攻科研究の高度化

- ・学会発表の奨励

発表年度	総数（国際学会；国内学会；他）
H28	38（3； 19； 16）
H27	51（6； 20； 25）
H26	42（3； 17； 22）



企業への専攻科研究の紹介

(3) インターンシップとCO-OP教育

- ・地域企業に対する理解と就業体験

東北バイオニアEG、ブルボン
オリエンタルモーター、高研

58

あと他にも、企業との共同連携教育ということで、企業何社から来てもらって、その会社での実際の試験とか物を使って、例えば、接着剤。どういうのが一番適するかというのをグループで何も中身を分からずに、どれが良いかというのを実際の実験でやったというような授業もやっております。

アピールという点では、地域にアピールしなくてはいけないということで、一つの例では、専攻科の研究を地域の企業の方に、オープンに紹介するというのも昨年度からやっております。

それから、研究発表についても、国際学会等で学生が頑張っております。

5-2-1. 国際交流と英語教育

専攻科 #10/11

「国際的に活躍できるコミュニケーション力」

- ・海外短期留学（1～3カ月）
シンガポール、フランス、フィンランド
- ・海外インターンシップ（3週間～）
ベトナム（日本ユニシス）H28
- ・国際学会等での口頭発表
ISTS2017、Company 賞（山口雅仁君）
IUMRS-ICAM2017、研究奨励賞を受賞（高橋崇典君）
- ・英語力の強化
専攻科研究の英文要旨、英語プレゼン
学内での国際交流活動
TOEIC受験の義務化
全員が450点クリアを目標



シンガポール研修生に折り紙を

59

国際交流については、インターンシップは、本校の専攻科は必修です。そこには、海外でのインターンシップも含まれております。残念ながら今年は行きませんでした。これまで2、3年に1回は誰か必ず行っております。

英語力の強化ということは、ずっと課題にはなっているのですが、専攻科としては、とにかく研究発表の要旨、それからプレゼン。これは最低限英語でということを必修化しております。

あと、TOEICについても目標としては、修了時全員が450点は取っているということを目指しております。

最後に外部評価、質の保証ということについて、簡単に説明します。

専攻科に限らず本校全体の話ですが、今日の運営協議会の他にも、法律で決まっている評価・審査は当然受けております。さらには、今考えているのは、新しく別に外部評価ということで、自己点検・評価するシステム等、その外部からの評価というものも現在構築中で、心づもりとしては、こういった認証評価が5年から7年以内なので、その間で、この認証評価まではいかないですけれども、自前で出来るような自己点検をやりたいと考えております。

5-3. 質の保証／学位授与

専攻科 #11/11

(1) 外部評価

- ・機関別認定評価と専攻科認定審査
5～7年以内ごとに大学改革支援・学位授与機構が実施
- ・運営協議会
毎年実施される本協議会
- ・第三者 or 関係者による評価
新たな自己点検・評価システムを構築中

H25に認定評価を実施
H26に専攻科審査を受審

(2) 学士の学位授与

- ・特別適用専攻科として認定され、
H27年度修了生から特別適用

学士の学位授与の判定を適切に
評価・判定できる専攻科
(教員の教育研究業績、カリキュ
ラム等が授与機構から審査)

修了年度	学位取得者(修了者)
H28	24名(24名)
H27	24名(25名)
H26	28名(29名)

未取得者は次年度に従来方式
(小論文試験)で学位取得可能

60

最後に学士の取得の状況です。修了生全員と言いたいところですが、やはり科目を落として、学位を貰えなかったという学生も現実にはおります。ただ、専攻科修了ということで、社会に出て企業で活躍はしております。

以上のような状況です。どうもありがとうございました。

【前田委員長】

これで事務局の前半の説明は終わりですね。質問ということで、今まで発表されたことで、何か。

東先生どうですか。

【東委員】

細かいところ、いろいろお聞きしたいことがあります。

最初の入試倍率。29年度は、1.43倍でだいぶ上がって素晴らしいと思いますけれども、女子学生なんかの募集も増やすような、そういう取り組みはされておりますか。



東 信彦
長岡技術科学大学長

【佐藤教務主事】

現在の鶴岡高専の女子学生比率というのは、

13% くらいです。それを何年かけて 30% くらいまでに持っていこうという目標を設定しています。

一つ具体的なのが、女性の先生を増やすということが一つ大事なことになりますので、今女性の教員を増やすことをしております。

それから、中学校の生徒に対しては、年 1 回ではあるのですが、高専女子セミナーというのを開きまして、主として OG を呼んで、高専を卒業して技術者になるとどういう生活をしていて、どういうライフプランを考えられるのかということを、直接卒業生から中学生の皆さんに語っていただくというようなことをやっています。

あとは、中学校を訪問するときに、女子学生専用のパンフレットを作っておりますので、「キラキラ高専ガールになろう」というタイトルのパンフレットですけれども、これを配って理系女子というか、女性の技術者がどれだけ素晴らしいかということを宣伝しております。

【東委員】

専攻科の方で、修了生の県内就職率が 2 割から 5 割くらいになっていますが、できたときはたぶん多かったのかなと。最近は 2 割台くらいになっている気がするのですが、それはどうですか。

【飯島専攻科長】

絶対数が少ないものですから、年によって非常にバラツキと言いますか、変動が激しくて、5 割になったのは 3、4 年前でしたか、そのときは、どんっと 5 割になりました。ですから、できた当初が多いとか、そういうことではありませんでした。

【東委員】

専攻科で実践的な教育で地元の企業と共同

研究とか、そういうのはされていますよね。

【飯島専攻科長】

はい。

【東委員】

そういうことで、学生が興味を持って、地元に着定するのが増えればと思いますが、そういうような例はありますか。実際、共同研究をやっている学生が面白いなと思って、そのまま就職するようなことはありますか。

【飯島専攻科長】

すぐには出てきませんが、地域連携とか。

【佐藤教務主事】

地元には Spiber という企業がありますが、その会社には、高専内に連携講座というものを作ってもらって、今共同研究と授業もやってもらう試みをしています。そんなこともあって、Spiber に入社したいという学生はかなりいまして、毎年入っているというのが続いています。それが一つの例になります。

他には、例えば、シンクロンとか、高砂製作所というところ、CO-OP 教育ということで、一定期間行って、2 週間とか 3 週間就業して、実際にお給料をいただいて研修する。そういうのを通じて、会社と学生がよく知り合って、その結果、就職に繋がるというのは結構なケースであると聞いております。

【林田委員】

専攻科の教育で、融合・複合教育というところ、これも面白いなと思ったのですが、高専は 1 学科にして、最初は全体でやりながら、そして専門性を深めていく。



林田 光祐
山形大学農学部長

専攻科生になって、もう 1 回広げるという、その辺の関連付けをもう少し聞きたいと思います。

【飯島専攻科長】

融合・複合教育については、実は再編する前から本校としてはある程度やっています。はっきり言えば、専攻科では前は選択だったのを必修にしたというようなことになります。本校の再編では、専攻科を 1 専攻に再編したのと、本科を 1 学科に再編したのが同時なんです。本来であれば、年次進行でいくのですが、今のような経緯で、前からやっていた融合・複合的なことを選択ではなく、必修にしたということです。

【林田委員】

要するに、学科の方を再編して、それで年次進行で上がってくると前の学生と再編されたあとの学生の教育内容が若干違うと思うのですが、その辺をもう少し結びつけるというようなことは考えていらっしゃるのでしょうか。

【飯島専攻科長】

どちらかと言うと専攻科では、専門がもっと進んでいると言ったらおかしいですが、実験まで全部やるのですが、本科ではそこまではやっていなくて、総合工学という科目で、本科の方は……。

【林田委員】

むしろ基礎的な。

【飯島専攻科長】

基礎的なということです。イントロ的なところをやるというようなスタイルです。

【林田委員】

分かりました。

【皆川委員】

三つあります。

1 点目は、頭の方に資料があったと思いますが、留学生の状況とその留学生の進路はどうなっているのか。

それから、社会人で専攻科に入られた方がいたというお話がございま



皆川 治
鶴岡高専技術振興会会長

したけれども、どのような理由なのか。あとは、社会人の方が、これまで学ばれているケースが他にあるのかということ。

それから、奨学金のお話がありましたけれども、奨学金がその後の就職先に紐付いているようなケースがあるのか。例えば、奨学金を地元就職に繋げていくというような取り組みがもし考えられるとすれば、それについてどう考えるかというような、この3点についてお願いいたします。

【佐藤教務主事】

留学生については、後半の国際交流に関係するところで詳しくご説明いたしますが、進路については、留学生の場合の多くはアジアの留学生ですが、3年に編入学してきて、3、4、5と高専で学んで、高専を卒業して、またどこか行くわけですが、本校に來ている留学生の多くは高専を卒業後、大学の方に編入学するケースが多いです。もしくは、国に帰って、地元の国で就職するなり仕事につく、あるいは大学に入るケースもありますが、だいたい、日本の大学に編入学していくのが多いです。それは長期の留学生についてです。

【飯島専攻科長】

それでは、専攻科の方から社会人入学についてお答えします。

来年度から入学予定なんですが、社会人の方は本校出身で、卒業してから2年目くらいですが、関東の企業に就職されています。地元がこちら庄内であるということと、もう一つは就職した会社の方と本校の教員が共同研究をやっているというケースなんです。そうすると、研究絡みで、専攻科研究というのがありますが、それがスムーズに、しかも会社の方にプラスになるというようなメリットがあると思います。

さらには、専攻科でやはり学士を取りたいということが、だいぶ大きなウエイトにもなっているようです。ある程度大きな会社でするので、そういったことも十分必要になってくるのかなと思います。

これまでの実績ですと、記憶では2名おりました。1名は、会社を辞めてから社会人入学というようなスタイルで來ました。普通の学生と同じようなカリキュラムで普通に卒業したという経緯です。もう1名は、確か自分で会社を持っていたらしくて、自分の仕事の方が忙しくて途中でやめられたと記憶しております。

【高橋校長】

3番目の奨学金については、私の方から説明させていただきたいと思います。

ただいま紹介した奨学金制度は、これは紐付きではまったくございません。あくまでも、自由に使えるということです。ただ、私自身いろいろな地域の課題を考えたときに、先ほども紹介させていただきましたけれども、最上地域で人材が欲しいということで、かなり活発な動きをしております。最上地域では、中核工業団地の企業が、皆で協力し合いながら奨学金制度を作って、それでその奨学金を貰った学生について、もし中核工業団地の企

業に就職したならば返還しなくてもいいような奨学金制度を作ろうということを考えております。

それから、小国町ですが、高専の学生を対象にする企業が2社ほどございまして、そこは会社独自で奨学金制度を作って、やはり同じようにその会社に入った場合は、返還しなくてもいいような仕組みを作ろうとしています。

ただ、一つ問題がございまして、結局入ってくる時点は高校生です。その時点から、就職の自由を妨げるようなやり方が法律的・制度的に許されるのかというところが、まだはっきりしない点がございまして、その企業では、その制度についてまだ検討中で、進める段階には至っていないという問題があります。校長としては、できるだけ積極的にそういうやり方を進めて、今貧困児童も増えてきておりますので、そういう学生たちにとって、良い制度を取り入れられればと考えております。

【木村委員】

私からの質問は二つあります。

その前に今高橋先生から、鶴岡市長のご質問で奨学金の関係がありました。実は、県の方でも奨学金返還支援制度というも



木村 和浩代理委員
山形県庄内総合支庁産業経済部長

のを設けておりまして、今回日本学生支援機構の奨学金をお受けになっている学生が多いようですけれども、その学生が卒業後、県内の企業に就職等をされて、3年経過した時点で、その奨学金の2分の1を返還・支援するというような制度も設けておりまして、事

前に学生を紐付けするということにつきましても、厚生労働省の了解を得て今進めておりますので、企業の方が単体でやりたいと言った場合も、お互いそういったものとはバッティングしないような形で、今できるような形になってきております。

ぜひ、県と市町村たちが一緒にやっておりますので、その奨学金返還支援制度をぜひ活用いただくように、学生の皆さんにもお話をさせていただくとありがたいと思いました。

それから質問の方です。

一つ、学生の募集の関係で、いろいろ広域で仙台とか秋田の南部の方もいろいろとお声掛けいただいているようですけれども、新潟の北部とか、その辺あたりにも、今庄内総合支庁の方でも広域的な取引拡大ということで、だいたい庄内と新潟北部地区、それから秋田南部地区ということで、経済圏としては、非常にそういった中で連携をしておりますので、可能であれば新潟北部地区辺りにもぜひお声掛けをいただければありがたいと思ったことが一つであります。

それから、Uターン支援事業ということで、今展開をしていただいているようでありますけれども、1回県外等々に就職された学生について、例えば山形の方に戻りたいとか、そういった実態でありますとか、そういった学生に対してどのような支援をなされているのかを教えていただければと思います。

【神田学生主事】

具体的にそういった対応の施策はなかったのですが、ホームページ上でそのまま入力していただければ、雇用対策協議会にそのデータが行くような仕組みにしております。今のところは、鶴岡市雇用対策協議会だけなんです、今後は山形県内全域に紐付けできるよ

うな方法を考えております。

ただ、具体的にどのぐらいのOB、OGの方がUターンしているかという数は把握しておりませんので、その数の把握もしていきながら具体的な手を打っていきたいと思います。

【佐藤教務主事】

新潟北部の提案等ありがとうございます。実際、仙台と秋田の南部を始めたのは、今年から初めて始めました。ぜひ来年以降は、新潟北部もターゲットに入れて活動したいと思います。どうもありがとうございます。

【石崎委員】

1点目は、学生担当副校長と学生会役員との定例ミーティングというのがあるということで、どのような内容を一般に話し合うのかということが1点。



石崎 幸宏
田川地区中学校長会会長

それから、自治体との連携ということで、今回鶴岡市との連携と最上総合支庁との連携ということがありますが、これはあくまでも今年度のことで、その後はどんな展開をしていくのかというようなこと。

それから、素晴らしいなと思ったのが、地区保護者懇談会をこんなに細やかに行っていることには驚かされました。ありがとうございます。

以上です。

【神田学生主事】

1点目の学生会との懇談会ですが、学生会から学校の様々な設備に対する要望ですとか、授業のあり方とか、とにかく学生目

線で学校にこうしてもらいたいという意見書を貰っています。それに対して学校としてどう答えられるかということとずっとディスカッションしながら、実に学生も厳しくて、前に宿題を出すと、次の会に「それは解決されましたか」と必ず解決を求めてきますので、学校側もその会議が終わるとすぐに関係事務の方に連絡をして、とにかく早急に対応してくれということとを連綿と続けています。

ただ、自治体の連携につきましては、地元就職定着率が非常に大事なことになるので、今後も継続してさらに拡充しながら進めたいと思っています。

先ほど三つ目にお褒めいただいた地区の保護者懇談会ですが、実は、学校長・事務部長、両方とも毎回出席しておりまして、ここ2年くらいで保護者の方の出席率も非常に増えております。保護者の生の声、保護者の要望等をしっかり聞き取り、有意義に機能していると思っています。

【恩田委員】

大変細やかな取り組みをされているということで、感心させられました。

これは、現状と今後の課題というようなタイトルで説明があったわけ



恩田 明雄
鶴岡高専峰友会副会長

ですが、課題については、非常に説明が少なかった。それだけ素晴らしい取り組みなのかなと思っていたところですが、女子寮の関係なんかは課題として上げられておりましたが、他にどのようなことを課題として考えておられるのか、お願いしたいと思います。

【高橋校長】

私自身校長として2年目になりましたが、やはり高専に対する一般の方々の認知度が低いのではないかというふうに思っております。

例えば、今入っている学生などを見ても、兄弟で来ているとか、あるいは親御さん、あとは結局親戚の方々が高専のOBであったり、要は、高専を知っている方々のご子息、ご子女が集まっているような気がします。それをもっと一般まで広めていかないといけないだろうと。

それで、一つの試みとして、PR活動ということで、10月末、^{かくほうさい}鶴峰祭という高専祭があったんですが、そのときに山形新聞に一面の広告記事を出させていただいて、その1ヵ月後にまたもう1回、2回高専の広告記事を出させていただきました。これは、今の時期が、中学生が進路を決める時期と聞いておりますので、その時期に重ねたということでございます。

あとは、もう一つは経営状態が非常に脆弱でございますので、経営を何とかしていかないといけない。そのためには、やはり自分たちの組織の中で、バックアップしてくれるような仕組みを作っていないといけないだろうと。それにはOB・OGの活用が一番だろうと。単純に計算いたしますと、この庄内地区に我が校の卒業生が1,500人以上おられます。その方々とどうやって連携を取っていくかということが、これからの非常に大きな課題だろうと思っております。そのOBたちの繋がりをつけるために、先ほど申し上げたホームカミングデーというのを開かせていただいて、卒業の1回生から3回生までを高専にお呼びして、それで今の高専をご覧いただいて、これからも高専をバックアップして

いただくような話し合いをさせていただこうという取り組みをさせていただきました。少しPRが悪くて、お集まりいただいた数は少なかったのですが、来られた方々は非常に満足していただきまして、それで高専に対する支援をお約束いただきました。

今それとともに、OBの方々にどういう改革をこの高専が進めていったらいいのかというアンケート調査を地道にやっております。それらの結果をあとで取りまとめた後から、本校をどういうふうに改革していくかを、また検討させていただきたいと考えております。

【前田委員長】

休憩を10分取らせていただきます。

(休 憩)